



自ら自分の未来を切り拓いていく子供たちを育てるために 授業改善こそが、最善の策

副所長 小田部 徳浩

小中学校の新しい学習指導要領が本年3月に示されました。高等学校の学習指導要領も本年度末には示される予定です。

その前文にこれからの学校に求められることとして、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」という記述があります。正に、我々教師が、子供たちをどのような人間として育てていったらよいのか、その方向性を示すものだと思います。



では、実際にどのような教育課程を組んで、日々の授業実践を行えばよいのでしょうか。

この点について、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について（答申）平成28年12月21日 中央教育審議会」の中に、「何を、どのように学び、どんな力を身に付けるのか」ということが明確に示されています。（是非、目を通してください。）

それを受けて、各学校におかれては、既に、校内研究等で授業改善に取り組んでおられることでしょう。ここで大事なのは、これまでの教育実践を大幅に変えていくということではなく、これまで培ってきた授業の在り方を今一度振り返り、改善していくという視点だと思います。とは言え、そのような営みは決して楽なものではありません。一人でできることには限りがあります。

教育センターの講座を受講された先生方のアンケートに「日々の業務に追われて、時間がない。」「毎日の授業で精いっぱい。」そんな声がありました。確かに、日々慌ただしく過ごしておられることだろうと推察いたします。しかし、そうではあっても、やはり我々教師は、「授業で勝負」ではないのでしょうか。そして、大変な時こそ、互いに支え合っていくことが大事ではないでしょうか。

教育センターでも、そんな日々頑張っておられる先生方を支援できるように、2学期以降も、様々な研修をご用意しています。「実際に授業を見ながら」、「先生方の地区で」、「午後の短い時間で」など、先生方が参加しやすく、しかも、授業力の向上につながる研修を準備しました。

微力ではありますが、先生方の頑張りを支えていきたいと考えています。先生方の受講をお待ちしています。

そうして、自ら自分の未来を切り拓いていく子供たちを、共に育てていこうではありませんか。

ご存じでしたか？

「ミネルバ」の
由来



「ミネルバ」はローマ神話に由来する学問・知恵を司る女神の名前です。女神の連れているフクロウは知恵の象徴だと言われています。時代が転換していく状況の中で英知をもって飛躍し、そこから新しい時代を切り拓く願いが込められています。

研究協力校（春日北小学校・大和中学校・致遠館高校）を会場として行われている講座授業には、多くの先生方が受講されています。講座授業では、センター所員が講座のテーマに基づいた内容の授業を行います。

今回は、中学校技術科Ⅰ講座の講座授業の内容を紹介します。

中学校技術科Ⅰ講座（新学習指導要領を踏まえた授業づくり）

新学習指導要領では、身近な生活につながる問題解決場面の設定を取り入れた授業づくりが、どの教科においても求められています。この講座では、電気の単元（エネルギー変換に関する技術）で視覚的に理解できる教材の工夫を行い、生活とのつながりを実感できるような事例を取り入れた授業を提案しました。

- ① 事前授業では、羽根のない扇風機の模型製作を行いました。羽根のない扇風機から風が出る仕組みを学び、電気エネルギーと風力の関係性について関心を持たせ、その模型を使って、風力発電の発電効率について学習していきましました。風を受けるプロペラの数や形状を変えることで、電力にも差ができることを理解させ、再生可能エネルギーの発電方法について学習しました。
- ② 講座授業では、自転車のオートライトや最近市販されている人感センサ付き電球の仕組みを理解するために、ダイオードやトランジスタ等の電子部品を使用した電気回路を作成しました。電流の流れは目に見えないため、プレゼンテーションソフトや動画を使って再現し、生徒の理解を深めさせるように工夫しました。トランジスタの学習では、羽根のない扇風機の原理を思い出させ、スイッチの増幅作用の働きについて理解を深めていきました。
- ③ 単元のまとめは、トランジスタの発明によって、電化製品の小型化に役立っていることを学習しました。現在では、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）の技術を応用した電化製品の開発につながっていることを学習し、未来の電化製品について話し合わせて単元のまとめとしました。

生徒が書いたワークシートからは、「普段、利用している自転車のオートライトの仕組みが分かった」、「羽根のない扇風機や人感センサ付き電球を作った人は、すごいと思った」等の感想が見られました。生徒は、学習した内容が生活の中に生かされていることを実感することができたようです。

午後の講義では、熊本県教育センターから大塚芳生先生を講師にお招きし、新学習指導要領の趣旨を踏まえた技術分野の授業づくりについて講義をしていただき、更に研修を深めることができました。

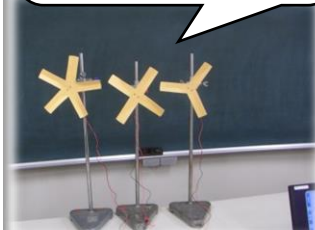


大和中での所員による授業



羽根のない扇風機の模型製作

風力発電のプロペラが、3枚羽なのにも理由があったんですね！



羽の枚数を変えた風力発電実験

10月のサタセン

10月に実施される「サタセン」（土曜日に教育センターで行う自主参加の研修会）をご案内します。申込み方法等の詳細な内容は、各担当者から学校に連絡いたします。各自で直接お申込みください。（管理職の方を通しての申込みではありません）

校種・教科等	期日	時間	テーマ・内容等	担当者・連絡先
小学校国語科	10/14	9:30～12:00	・センター所員による資料提供「新学習指導要領について」 ・遠富洋二教授による講義「国語教育の創造」 場所 佐賀大学 学生センター3F(教育学部2号館3F) 国語科教室	小旗 浩徳・橋本 亜紀 ℡.0952-62-3554(小旗)
中学校国語科	10/14	14:00～16:30	・「年度後半の授業を考えるーカリキュラム・マネジメントの視点からー」 ・学校における国語科の現状やお悩みフリーターキング アドバイザー 遠富洋二教授 場所 佐賀大学 学生センター3F(教育学部2号館3F) 国語科教室	岩瀬 弘憲・堤 直子 ℡.0952-62-5212(岩瀬)
小・中学校音楽科	10/14	14:00～16:30	やってみよう！ 筆を使った創作・音楽づくり 場所 佐賀大学教育学部附属中学校	副島 和久・坂本 康子 香月 博子 ℡.0952-62-5214(坂本)
小学校算数科	10/28	10:00～12:00	「学び合いのポイント」 「算数お悩み何でもフリーターキング」	副島 静香・新 真一 澤野 昌治 ℡.0952-62-5238(副島)
生徒指導 特別支援教育	10/28	10:00～12:00	どうしたらいいの？ 障害のある子供への対応 特別支援教育のお悩み相談会	伊東 一義・水野 留美子・ 田代 いづみ・江頭 満江・手塚 芳美 ℡.0952-62-5211(伊東)
小・中 生徒指導 教育相談	10/28	10:00～12:00	やってみよう！ 学級づくり役立つ構成的グループエンカウンター(SGE)	堤 葉月・森永 綾子・ 中原 祐明・江頭 淑美・川副 良介 ℡.0952-62-5211(堤)
小学校学級経営	10/28	10:00～12:00	「自己成長力アップ！！自分よりよい自分の成長を促す学級づくり」	平川美葉・白水 佳奈子 ℡.0952-62-5212(平川)

10月14日のサタセンは、会場にご注意ください。

教育センターでは、佐賀県教育課題解決のため、専門的知識の習得と指導力の向上及びミドルリーダーとしての資質・能力の向上を図ることを目的として長期研修事業を行っています。今年度も1年間の研修生8名と半年間の研修生2名、合わせて10名の長期研修生が日々研修に取り組んでいます。

現在は理論研究を深めながら、研究仮説に基づく手立てを具現化し、授業実践や検証に向けて準備を進めているところです。また、研修生同士やセンター所員を対象に模擬授業を重ね、学校での授業実践に備えています。今後は、授業の検証を行った上で研究をまとめ、年度末に教育センターで行われる成果発表会や教育センターWebページでその成果を発表していきますので、ご期待ください。

今年の長期研修生の顔ぶれとそれぞれの研究について紹介します。



「考察する力を高める」

小学校 理科 秀島 哲 研修生
〈佐賀市立西与賀小学校〉

小学校理科の問題解決学習において、観察や実験の結果を基に考察することができる児童の育成を目指しています。

自分の考えを持って仮説との関わりを意識しながら実験するような学習活動を仕組めば、実験の結果を基に考察できる児童が育つと考え、研究を進めています。「理科が好きだよ」「理科で考えることって楽しいな」という思いを持つ児童が増えるような授業づくりに取り組んでいます。

「伝え合おうとする児童を目指して」

小学校 外国語活動 田中 香織 研修生
〈鳥栖市立鳥栖小学校〉

外国語を用いて、自分の思いや考えを伝え合おうとする児童の育成を目指して研究に取り組んでいます。

“Me too.” “Good!”などの簡単な英語表現を取り入れて、互いの気持ちを大切にしたりやり取りを行う中で、「友達とのやり取りは楽しい」「友達に褒められて嬉しい」という気持ちが育まれます。このことが、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高め、伝え合おうとする姿につながるであろうと考え、研究を進めています。

「問題解決の能力を高める」

中学校 数学科 古川 義浩 研修生
〈武雄市立山内中学校〉

自他の思考過程を比較させる活動を通して、問題解決の能力を育てる研究に取り組んでいます。

学習過程の中の考え合う場面において、2回のグループ活動を設定した授業づくりに取り組んでいます。1回目は同じ考えを持つ生徒との交流で、自分の考えを深めます。2回目は違う考えを持つ生徒との交流で自分の考えの良さを再認識したり、考えを広げたりします。この2回のグループ活動を通して最適な問題解決の方法に気付かせることができると考え、研究を進めています。

「分析・解釈の充実」

中学校 理科 松永 千尋 研修生
〈佐賀市立城東中学校〉

中学校の理科の授業において、分析・解釈を充実させるために、実験の計画を立てる場面での指導の在り方について研究を行っています。

実験後に、結果を書くことができても、「考察で何を書けばいいのかわからない」という生徒が多いように感じていました。そこで、実験前に協働的な学習を通して実験の計画を立て、学習の見通しを確かなものとするれば、分析・解釈ができるようになると考え、研究を進めています。

「道徳的価値を自分との関わりで捉える」

小学校 道徳 光武 学 研修生
〈吉野ヶ里町立東脊振小学校〉

自己を見つめ、自分にできることはどんなことだろうと考えを持てるような道徳科の指導の在り方について研究をしています。

これまでの道徳の学習において、教材から学んだ道徳的価値を「自分事」として考えさせることが難しいと感じていました。道徳科の振り返り活動において、道徳的価値を自分との関わりで捉えさせることで、道徳的実践意欲と態度の育成につなげようと研究を進めていきたいと思います。

「自己有用感を高める」

小学校 教育相談 福山 敦子 研修生
〈唐津市立長松小学校〉

互いのよさを伝え合う活動を通して、自己有用感を高める手立ての工夫について研究に取り組んでいます。学級の中には、自分に自信が持てない、認めてもらえていない等、自分の存在価値を見いだせない児童がいます。

児童が、友達との関わりの中で、周りから肯定的な評価を得て、自分のよさを発揮でき、自己有用感を高め、安心して学校生活を送ることができるように、研究を進めていきたいと思います。

「可視化した考えを基にした交流活動」

小学校 国語科 前田 いずみ 研修生
〈武雄市立西川登小学校〉

小学校国語科の文学的な文章の学習において、可視化した自分の考えを基に交流させることで、叙述を基に読みを深め合う児童の育成について研究に取り組んでいます。

可視化した考えを基に交流を行えば、一人一人の捉え方の共通点・相違点が一目で分かるようになり、捉え方の根拠を伝え合うことで一人一人の感じ方の違いや着目した叙述の違いに気づき、読みを深め合うことができるようになると考え、研究を進めています。

「望ましい人間関係の育成」

小学校 特別活動 深草 裕子 研修生
〈佐賀市立若楠小学校〉

学級活動(2)の「日常生活や学習への適応及び健康安全」において、よりよい自己決定をし、望ましい人間関係を築こうとする態度の育成を目指して研究に取り組んでいます。

質問、傾聴、承認というコーチングの考え方を生かした話し合い活動を通して、児童の自主的、実践的な態度や互いのよさを認め合おうとする態度を引出すための手立てについての研究を行っています。学校現場で活用できるよう、日々の研究に励んでいます。

「自信と意欲を高める」

小学校 教育相談 田中 あや 研修生
〈佐賀市立神野小学校〉

児童が自信と意欲を持って学級での諸活動に取り組むための支援の在り方を探る研究をしています。

良好な人間関係を築き保っていくためには、ソーシャルスキルが必要です。そこで、本研究では、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、友達と一緒に活動し、友達に承認されたり、活動を楽しんだりする中で、自信と意欲を高めていきたいと考えています。学校現場に役立つ研究になるように頑張ります。

「考えをわかりやすく説明する」

小学校 算数科 小野 単子 研修生
〈唐津市立蔵木小学校〉

小学校算数科の授業において、解決の方法を説明する算数的活動を取り入れた学習指導の在り方について研究をしています。

「根拠を明らかにしながら解決の方法を的確に説明する姿」や「互いの考えを比べ、自分の考えを再確認・再構築する姿」を目指して理論研究を行い、具体的な手立てとその実践へとつなげていきます。検証もしっかり行い、学校現場に役立つ研究になるよう努めていきます。

過去の長期研修生の研究内容等についてはこちらをご覧ください。授業づくりや校内研究のヒントとして、学習指導案作成や教育論文執筆の参考として、是非ご活用ください！

Link!

http://www.saga-ed.jp/chouken/choukikenshuu_jigyoku/index.html

